

夢を志望に、志望を現実に！ 卒業生の進路状況

卒業年度	23	22	21	20	19
卒業生数	279	312	316	316	315
国公立大学	126	153	140	145	150
私立大学	647	668	653	729	545
東京大学	1	0	0	3	0
京都大学	0	5	5	5	5
名古屋大学	10	15	15	20	21
大阪大学	4	3	2	2	6
岐阜大学	17	40	25	32	20
早稲田大学	9	10	16	4	17
慶應義塾大学	8	5	4	6	7
南山大学	41	51	40	42	37
名城大学	64	41	41	54	36
立命館大学	58	88	66	93	44
同志社大学	31	33	43	35	24

※合格者の多い大学のみ掲載しました。

23年度の進学実績は、京都、名古屋および岐阜大学の合格者が減少し、厳しい結果となりました。また現役生の国公立大学合格率もやや低い数値となりました。

そんな状況の中で、久しぶりの現役東京大学合格者や東京医科歯科大学、宮崎大学医学科合格者の存在は特筆すべきものとなりました。その他、大学別にみると、一橋大学を筆頭に、東北、名古屋、大阪、神戸、富山（薬学部）、岐阜薬科大学などの難関大学の合格者、人気の高い地元大学である岐阜、名古屋工業、名古屋市立大学などの合格者の存在も続いています。私立大学では、早稲田9、慶應義塾8、東京理科大学22、同志社31、立命館58、南山大学41など、難関大学の多数の合格者の存在が続いており、素晴らしい合格実績となりました。

平成24年度役員紹介

会長	堀部 哲夫(高21回)
副会長	加藤 洋子(高13回)
書記	井上 博文(高16回)
監事	日比野信子(高16回)
会計	藤井 市三(高19回)
監査	清水 俊夫(高20回)
監査	早川佐知子(高21回)
監査	鈴木 良春(高22回)
監査	岡田 義和(高23回)
監査	丹羽 克彦(高24回)
監査	立川 雅俊(高25回)
監査	川嶋 亨治(高26回)
監査	佐藤 敏則(高27回)
監査	浅野 欽一郎(高29回)
監査	長尾 一郎(高32回)
監査	浅野登代子(高10回)
監査	山田 正樹(高24回)
監査	武藤 玲子(高13回)
監査	神谷 泰久(高21回)
監査	伊佐地秀一(高21回)
監査	古田 貴巳(高39回)
監査	樺山 舜亮(高14回)
監査	梅田 洋子(高11回)
監査	高井奈津子(高14回)
監査	野中 歌子(高15回)
監査	平田 和子(高16回)
監査	池村 洋子(高18回)
監査	黒野理津子(高38回)
監査	長尾 歩(高40回)

平成24年度同窓会総会開催



第 44 号
発行所
関高等学校同窓会
岐阜県関市桜ヶ丘 2-1-1
郵便番号 501-3903
電話 (0575) 22-5688
FAX (0575) 23-7089

〈校訓〉
進取 至誠 錬磨

書記 浅野登代子(高10回)

去る6月16日(土) 平成24年度関高等学校同窓会総会が、美濃市の「みの観光ホテル」で開催されました。学校からは安藤敏彦校長、重山武平教頭がご出席され、来賓として尾関健治関市長がご臨席くださいました。

また、当番幹事の22回生・23回生の呼び掛けにより、総勢160人を超える盛大な総会になりました。

杉浦会長は、昨年11月5日に開催された創立90周年記念事業について、未曾有の東日本大震災復興に国民が全力を注いでいる中、質素でしたが記念すべき内容でしたと挨拶されました。安藤校長からは



盛大に160人を超える同窓生の集い

関高校の現状や、少子化時代に対応できる新しい礎を築く必要性を話されました。その後、審議事項に移り平成23年度の事業報告と会計報告・同窓会会則第6条の一部改正に続き、新役員選出が行

われました。新会長に堀部哲夫氏(高21回)が承認されました。

平成24年度の事業計画案と予算案が審議され、満場一致で承認可決されました。

総会に引き続き懇親会ではあちこちに懇談の輪ができ、久しぶりの再会を喜び、楽しい一時を過ごすことができました。最後に、関高応援歌を全員で声高らかに歌い、総会・懇親会を無事終えることができました。

現在、関高等学校同窓会会員は24,000人余りです。ますます同窓会活動が盛んになることを念じながら報告を終わります。

第64回生(平成24年3月卒業) 同窓会クラス幹事

学年幹事	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
丸茂 勇輝	長瀬 晶子	武田 直樹	山田 真愛	佐藤 拓真	白井 大貴	加藤 明奈	平田 淑乃
石田 幸香	天野 友乃	石野 幸和	中島 幸和	小野 幸和	小野 幸和	小野 幸和	小野 幸和

平成24年度 同窓職員異動

【転出】
常勤講師(国語) 鈴木めぐみ(高59回)
【転入】
事務主任 杉村 尚美(高45回)

おくやみ

高橋 俊示先生
塚原 史朗先生
鶴岡 修司先生
酒向 鐸雄先生(高5回)
ご冥福をお祈りします。

新同窓会長挨拶



会長 堀部 哲夫

6月16日の関高校同窓会総会で会長のご承認を頂きました。関高校は創立90年の歴史を有する伝統校です。その同窓会の会長を務めることに責任の重大さを感じています。

昨年は、関高校創立90周年の式典、記念事業等が行われました。杉浦孝志前会長は、この事業に献身的に貢献されました。おかげで、立派な90周年事業が展開されました。杉浦前会長に敬意を表します。

引継ぎ本年度からは、来るべき100周年に向けての礎の年になります。組織、事業の充実を図っていくために地道な活動をしていく所存です。会員の皆様のご尽力をお願い申し上げます。

関高校同窓会会員は、全国北海道から沖縄、また海外にも散らばっています。本年度その数は24,000人を超えようとしています。この大きな組織が

事務局だより

▼転居等により、会員の皆様へのご連絡や「桜ヶ丘だより」のご送付に支障が生じております。つきましては、各学年の幹事の皆様や、会員の皆様で本人からの情報を事務局までお知らせ頂けると幸いです。

▼同窓会開催の折には、事務局までお知らせください。補助金をご援助しております。

▼会報掲載用の原稿を募集しております。同窓会員の皆様のご活躍の様子や、同窓会での交歓のひととき等の記事をお写真とともに御寄せください。(お写真はお返し致します)

今年は2年に一度の通常会費(2,000円)納入の年にあたっております。同封の振込み用紙をご利用のうえ、最寄りの郵便局よりお振込みください。ますようお願い致します。

同窓会会則 第12条
正会員は入会金並びに会費を納入するものとする。ただし、入会金は5,000円、会費は2年毎に2,000円とする。又、入会金は経費と積立金とし、会費は会の活動、定例会および第10条の目的を遂行に必要な経費の補助と特別行事(記念事業等)の補助を行うものとする。

有効に活用されることを考えていく必要があります。

その一つに、災害時のボランティア活動を考えてみてはと思います。日本は、昨年大きな災害に見舞われました。こうした災害に見舞われることは本々の宿命であり、これに備えることは、国民的課題であろうと思います。全国に散らばる卒業生24,000人以上を有する関高校同窓会の連絡網を利し、万が一の同郷、同窓の者助け合えるそんな組織作りしたいと考えています。

遠く郷里を離れ活躍してられる同窓会員が被災されるときに、わずかも援助ができれば、とくに、郷里が被災したとに、全国の同窓会員が援助できるように組織づくりが必要だと思います。全国を地域ごと区切り、名簿と連絡網の作成が必要になってきます。

私の任期中にどれだけのことができるか分かりませんが、お役に立てるよう頑張ります。幸い、多くの役員にまわっています。役員皆様方の方力添えを頂き、一丸となつて同窓会の発展に寄与していきす。ご指導よろしく願いす。

関高等学校創立90周年を祝う

記念事業として

- ・ 記念誌の発行
- ・ 航空写真撮影
- ・ オリジナルグッズの作成
- ・ 北舎特別教室のエアコンの設置
*平成16年から90周年に向けて進めてきたエアコンの設置が、今年度で完結することになります。
- ・ 彩雲館(同窓会館)のエアコン改修
- ・ カラーテントの購入

皆様のご支援をいただき、
上記の事業を行いました。

90周年記念に作成した
記念誌とクリアファイル▶



平成23年11月5日(土)、関高等学校創立90周年を記念し、本校体育館にて式典が開催されました。在校生840人と職員、来賓、卒業生合わせて約1,000人が出席し、90周年を祝いました。

式典では、加藤隆志実行委員長(高14回)の式辞、鬼頭靖尚前校長の挨拶に続いて、80周年以降の歴代校長、同窓会長、PTA会長、永年勤続職員への感謝状が贈られました。その後岐阜県議会議員酒向薫様(高27回)、関市長尾関健治様(高43回)より祝辞をいただきました。

式典に続いて本校第33回卒業生で東京大学准教授細野忍氏の記念講演が行われました。

関高創立90周年
記念式典を終えて

昨年3月11日の東日本大震災と福島第一原発災害の発生により、関高創立90周年記念式典開催についての議論がありました。しかし、当実行委員会は被災地への激励と本校の歴史的な重みに鑑み、挙行することを決定しました。

私の高校時代は高度経済成長期の緒にいたばかりで現在とは比較対象できませんが、のどかで悠長な時の流れがあったように思います。一方、物や人までもIT化する現代は、ゆとりの無い殺伐とした社会になっているようです。

式典に先立ち、そんな時代であるからこそ大切にして頂きたい事を二点提案いたしました。

一点は、「ふるさとの歴史」を勉強して欲しいということです。関高生諸君が将来ふるさとを離れて進学した時、あるいは海外に留学した時、自分が生まれ育ったまちの歴史



実行委員長
加藤 隆志

在学中の思い出



実行副委員長
(前同窓会長)
杉浦 孝志

在学中には東京オリンピックを始めとし、岐阜県国体とスポーツの祭典がくりひろげら

れ華やかな時代でした。私もソフトテニス部に在籍し、年間があっという間に過ぎた感覚です。1年生の初めて体験した強歩大会、にまめを作りながら歩いたのです。それが2年・3年時は走破しました。部活動成果があつたのかとも思っています。当時(S39年・S42年)は入学早々に関高精神の注があり、歴代続いていたようです。昼食時間に先が入って来て、関高生は色正しく生活しなさいの話だと記憶しています。現在なくなっているようですが私としては伝統的なもので、続けても良かったのでは思っています。

第19回卒業生は382人でした。各方面で活躍され方もおられると思いますが、まだまだ躍中の人も多くおられると思います。関高も90周年を過ぎました。今後関高とともに関高同窓会が、ますます発展されますことを願います。一足先に退くことをお許し、長い間、ありがとうございました。

ご寄贈のお礼

彩雲館に華添える

関高校の職員として、また、同窓生としてご尽力されました、故 奥田正子先生のご遺族の方より、生前奥田先生が制作された水墨画等5点をご寄贈いただきました。彩雲館にて飾らせていただきましたことをご報告するとともに、ご寄贈くださいました、ご遺族の方に深く感謝申し上げます。



彩雲館1階の廊下

「教師がどう指導してきたか。」ではなく「生徒が、主体的にどう取り組むか、活動しているか。」ということなのです。先生方のご苦労が多かったことでしょう。でも先生方の熱心なご指導のおかげで

正子先生を想う
渡邊よし子(高1回)

ことは、桜の開花が遅れた年ではありませんが、正子先生宅の西を流れている関川堤の桜は、見事に満開し、私たちを楽しませてくれました。しかし、正子先生に出会うことはないのです。旅立ってから、もう4年の年月が過ぎてしまいました。

私が、正子先生とお逢いしたのは、昭和22年4月でした。その昭和22年、当時占領下の日本は学制改革で六・三・三制に変わり、私たちは、岐阜県武儀高等学校専攻科から岐阜県立関高等学校3年

に編入することになった年でした。その高校3年の担任が奥田正子先生だったのです。私たちは、このお姉さま先生をととても身近に感じ、新鮮な気持ちで、お教えを受けました。

当時の日本は、民主主義だ、自由だといって、それ以前の軍国主義とは大きく大きく変わって、何もかもが目新しくなっていました。生徒自治会が初めてできました。ホームプロジェクトとか、ホームルームなど、今では当たり前のことが次から次へと出てきました。そんな中、岐阜県下の家庭科の研究発表会もありました。それまでの



彩雲館正面のピロティ

私たちは頑張ることができました。

正子先生は、いつもやさしく、丁寧な長に付きあひ、お導きくださいました。

先生は、退職されてからも、水墨画、ちぎり絵、木目込み人形、お茶、お花とご趣味は広く、しかもどれも一流に修められ、沢山の作品を残しておられます。中でも水墨画は数多く、感動し癒される作品を拝見して、あの小さいお体で、よくもこんなに精進なさることができたものだと尊敬の念を深くしています。私たち高校一回生の有志は、正

子先生のご助言で木目込み人形で「えと」を作り始め、今も作り続けて友情を深めています。これからも、この「えと」をみる度に先生を偲ぶことでしよう。

先生を偲ぶ想いはつきません。

先生とのお別れのとき申しましたように、今も先生は、千の風にのって方々へ出かけ、教え子たちを見守っていてくださることでしょう。

私たちは、あの大きな空を見る度に正子先生を思い出し、元気に暮らしたいと念じています。



彩雲館正面のピロティ